

梅雨の折柄、ご無沙汰しておりますが、お元気にお過ごしでしょうか？

突然で恐縮ですが、最近考えていますことと、関連資料数編を同封にて送らせていただきます。

日本の将来を決める国政選挙にあたり、安倍首相の美辞麗句だけで現実を覆い隠している政治、非正規雇用と貧困の拡大、憲法改悪の方向など、阻止しなければいけない、という危機感を持っています。

(1) 私は、物理化学の研究、情報科学の研究と教育、(技術分野での) 創造的な問題解決の方法の研究と普及活動などをしてきました。その中で、1998 年以来続けておりますのが、『TRIZ ホームページ』という Web サイトです。[資料\[1\]](#) にそのトップページをお見せします。

最近、「創造的な問題解決の一般的な方法論 (CrePS)」という概念と方法を創り、その確立に努力しています。[資料\[2\]](#)に、本年 3 月の国際会議での論文の要旨と、「6 箱方式」の模式図を示しました。この方法は、技術分野だけでなく、人間や社会の問題に広く使えるものです。その目標とする応用領域とテーマを描いた図と、大きな目標の図も示しました。

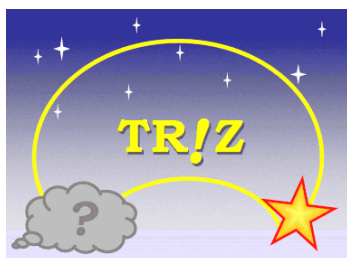
(2) 実際にこの方法を社会問題の解決に適用できるようにしたいと考えて始めたのが、藤田孝典さんの『下流老人』の本を読んで、その論理を「見える化」することでした。[資料\[3\]](#)の冊子がその成果です。これをまとめるまでの私の考えは、冊子の表紙の下半分に書いています。

私たち今の高齢者は高度成長期を支え、「一億総中流」と言われたころの現役世代ですから、前や後の世代に比べて、経済的に恵まれた世代です。それなのに、いま、高齢者の 2 割以上が貧困の状態にあります。いまの現役世代、そして若者世代は、人口構成の変化とともに、非正規雇用の増加や日本経済の長期低迷の中でもっともっと厳しい状況にあり、その人たちの老後生活は貧困がずっと蔓延するだろうといひます。冊子 11 頁の図をさらに簡略にして、[資料\[4\]](#)にしました。安倍首相はこのような現実を一切話しませんが、私はこの著者の考えに賛同します。

(3) この『下流老人』の本は、ベストセラーで、Amazon サイトには多数のカスタマーレビュー (読者の書評) が掲載されています。高い評価も多いのですが、低い評価も多く、「貧しくなったのは自己責任だ。生活保護へのタカリを助長するな」といった意見が (ネット上で) 多くの賛同を集めているのに驚きます。「競争に勝つ」ことを目指してきた人々とその社会が、「競争に負けた」人々に冷たく、(厳しい状況下で) 「助け合い」をできなくなっています。

その根底には、「自由」と「愛」という人類文化の二つの主要原理の間の葛藤 (対立、矛盾) があります。社会システムの至る所にその対立が不均衡のまま埋め込まれ、歴史の中で解決が図られながらも多くの新しい対立を生んでいます。それが社会福祉に対する人々のナイーブな意識に顕われているのだと、私は気づきました。これを論考としてまとめたのが、[資料\[5\]](#)です。

私たちは、「自由」と「愛」が均衡・両立することを願いますが、それは自然にできることではありません。ある人 (あるいは、会社や国) の「自己の利害 (= 自由)」の主張は、「社会の均衡 (= 愛)」を破りますが、それが対立を生むとともに新しい発展 (例えばイノベーション) の原動力になります。新しい社会的「勝者」は、自分の利害に沿った新しい社会システムを組み上げます。ですから、いつの時代でもその社会システムが理想的であるわけではなく、より高いレベルで変革 (= 自由) し、問題を調整・解決 (= 愛) していかなければなりません。-- 今後さらに論考を深めるつもりです。



2016 年 6 月

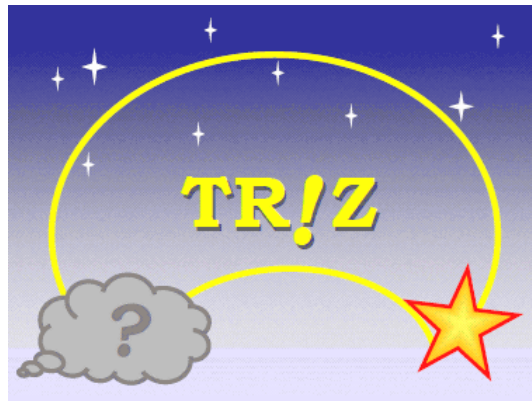
中川 徹

277-0086 千葉県柏市永楽台 3-1-13

Email: nakagawa@ogu.ac.jp

<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>

工夫はたのしい (子どもたちと中高生みなさんに) 編集: 中川 徹 最終更新日: 2015年 6月26日
問題を創造的に解決するには (学生と社会人の皆さんに) ● 社会問題 編集: 中川 徹 最終更新日: 2016年 6月20日
創造的な問題解決の方法 (技術者・研究者の皆さんへの入門) 編集: 中川 徹 最終更新日 2016年 6月20日
創造的問題解決の実践と方法論 (適用・推進の実践者の皆さんに) 編集: 中川 徹 最終更新日: 2016年 6月20日



このホームページは、創造的な問題解決の方法論の理解と普及のための、情報公開の場です。皆さんからの紹介記事、適用経験、論文、質問・意見などの投稿を歓迎します。

English pages are accessible by clicking the buttons.
日本語と英語の双方向に翻訳して、グローバルな情報共有を目指しています。

TRIZホームページ

編集: 中川 徹 (大阪学院大学 名誉教授)
最終更新日: 2016年 6月20日
<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>
創設: 1998年11月 1日

228858 visits since Nov. 1, 2005

TRIZ Home Page in Japan

Editor: Toru Nakagawa
(Professor Emeritus, Osaka Gakuin Univ.)
Last Updated: June 20, 2016
<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/eTRIZ/>
Established: Nov. 15, 1998

040128

4つの「入口ページ」を作りました。読者の方それぞれに親しみやすく、また適切な記事・資料にアクセスしやすくすることを意図しています。

全体の新着情報 (最近 9か月分) は本ページの下部にあります。各記事の性格を5色で区別します。 (旧 or 詳細) (2014. 9. 5; 2016. 4. 7)

工夫は楽しい (子どもたちと中高生みなさんに) (1) おもしろいことがいっぱい (2) よく見て気づく (3) なぜだろうと考える (4) しくみを学ぶ (5) はたらきを知る (6) じぶんで工夫する (7) りそうを考える (8) いろいろな例をあつめよう (9) じぶんで新しいものを作ってみよう (10) 先生方と保護者の皆さんへの情報	問題を創造的に解決するには (学生と社会人の皆さんに) (1) 問題に取り組む必要性と意義 (2) 創造性とひらめき (3) 創造的な問題解決の諸方法 (4) 問題とニーズをとらえる (5) 問題を分析し、理想を考える (6) 問題解決のアイデアを得て、実現を図る (7) いろいろな適用事例 (8) 身近な問題、社会の問題への取り組み ● 社会問題 (9) 学びの場と情報源 (10) その他	創造的な問題解決の方法 (技術者・研究者の皆さんへの入門) (1) 「創造的な問題解決」の目的と意義 (2) TRIZとは (3) TRIZの情報源 (4) TRIZの歴史と現状 (5) TRIZの基本的な考え方 (6) TRIZの知識ベースと諸方法 (7) TRIZの方法とその発展 (8) 適用事例 (9) TRIZを習得・実践するために (10) 質問と討論	創造的問題解決の実践と方法論 (本格的に適用・推進している皆さんに) (1) 新着情報と本サイトの活用法 (総合索引・検索など) (2) TRIZ参考文献・リンク集・ソフトツール (3) TRIZ関連ニュース・活動情報・学会報告 (4) TRIZ関連論文・解説・報告 (5) TRIZ関連適用・推進事例 (6) TRIZ教材、講義ノート (7) TRIZ/CrePS 方法論資料 (8) TRIZフォーラム (通信、意見、討論、など)
---	--	--	---

総合目次 	(A) Editorial	(B) 参考文献・関連文献	リンク集	ニュース・活動	ソフトツール	(C) 論文・技術報告・解説	教材・講義ノート			(D) フォーラム	Generla Index 
ホームページ 	新着情報 		子ども・中高生ページ	学生・社会人ページ	技術者入門ページ	実践者ページ	出版案内『TRIZ 実践と効用』シリーズ	CrePS体系資料	USITマニュアル/適用事例集	サイト内検索	Home Page 

新着情報 [最近9ヶ月以内の記事の簡単な紹介。★印は最近3ヶ月のもの。]

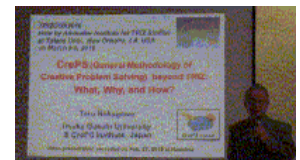
CrePS論文: **創造的な問題解決のための一般的な方法論CrePS: TRIZを越えて: なに?なぜ?いかに? (中川 徹)** (2016. 6.20) ★

米国でのTRIZCONが、数年ぶりで、本年3月3-5日にニューオーリンズ市で開催されました。私は、論文を提出し、発表準備を進めていたのですが、左脚にしびれが出たため直前で出張を断念しました。同学会の承諾を得て、発表をビデオに撮り、送付しました。ただ、学会では出席者の発表が優先され、このビデオは投影されずに終わりました。同学会の了解のもとに、ここに既発表のものとして、英文の論文 、スライド 、ビデオ 、および、和訳の論文 とスライド を掲載します。ビデオはMP4形式45分で、大阪学院大学の好意により本サイト内に掲載しています。(注: が新しいビデオのスタートマークです。)

本稿は、私がずっと提唱してきております「CrePS (創造的な問題解決の一般的方法論)」について、大局的な観点から述べたものです。私が、(CrePS という名で)何を樹立しようとしているのか。それはどのような意味でTRIZを超えるものなのか。なぜ、それを樹立することが必要で、望ましいのか? いったい、どのようにして、それを実現しようとしているのか? それは、可能なことなのか? 「概要」は以下のようです。

本稿は、「創造的な問題解決のための一般的な方法論」(略称: CrePS)を確立することを提唱しており、3つの基本的な問いに答えている。

What?: CrePSは、創造的な問題解決/課題達成に関わる従来の諸方法を統合する一般的な方法論であり、技術/非技術の広範な分野と多様なテーマへの適用を目指す。「6箱方式」という問題解決の新しいパラダイムを基本枠組みとする。
Why? 従来の多数の関連諸方法 (TRIZを含む) が、有効な基本枠組みを見いだせなかったために、ばらばらで相互に競合し、社会全体からの大きなニーズ (さまざまな分野とテーマでの問題解決/課題達成を行う、そのための方法をつくる、そのような能力を育てる) に有効に応えられなかった。このニーズに応えることを可能にする。
How? 「6箱方式」では、「現実の世界」で問題を定義し、「思考の世界」でその問題の解決策を考え出し、「現実の世界」でその解決策を実現する、というやり方をする。この中心にある、問題を分析して解決策を考え出す過程に関しては、すでに「6箱方式」を生み出した USIT法 (統合的構造化発明思考法) が確立されており、諸方法をこの枠組みに吸収・統合できる。「現実の世界」での問題定義と解決策実現の過程については、従来の諸方法を適用分野とテーマについて分類・類型化することが、統合化の準備段階として必要である。今後諸方法の研究・推進者の協力により、CrePS を確立・普及・適用することを目指す。



発表ビデオ (英語)
クリックで拡大
MP4形式 45分



バラ (旧古河庭園、東京)
中川 徹, 2016. 5.15
クリックで拡大

創造的な問題解決のための一般的な方法論 CrePS : TRIZ を越えて： なに？なぜ？いかに？

中川 徹 （TRIZCON2016, 2016 年 3 月 3 - 5 日、ニューオーリンズ市、米国）

【概要】 本稿は、「創造的な問題解決のための一般的な方法論」（略称：CrePS）を確立することを提唱しており、3つの基本的な問いに答えている。

What? : CrePS は、創造的な問題解決／課題達成に関わる従来の諸方法を統合する一般的な方法論であり、技術／非技術の広範な分野と多様なテーマへの適用を目指す。「6 箱方式」という問題解決の新しいパラダイムを基本枠組みとする。

Why? 従来の多数の関連諸方法（TRIZ を含む）が、有効な基本枠組みを見いだせなかったために、ばらばらで相互に競合し、社会全体からの大きなニーズ（さまざまな分野とテーマでの問題解決／課題達成を行う、そのための方法をつくる、そのような能力を育てる）に有効に答えられなかった。このニーズに応えることを可能にする。

How? 「6 箱方式」では、「現実の世界」で問題を定義し、「思考の世界」でその問題の解決策を考え出し、「現実の世界」に戻ってその解決策を実現する、というやり方をする。この中心にある、問題を分析して解決策を考え出す過程に関しては、すでに（「6 箱方式」を生み出した）USIT 法（統合的構造化発明思考法）が確立されており、諸方法をこの枠組みに吸収・統合できる。「現実の世界」での問題定義と解決策実現の過程については、従来の諸方法を適用分野とテーマについて分類・類型化することが、統合化の準備段階として必要である。今後諸方法の研究・推進者の協力により、CrePS を確立・普及・適用することを目指す。

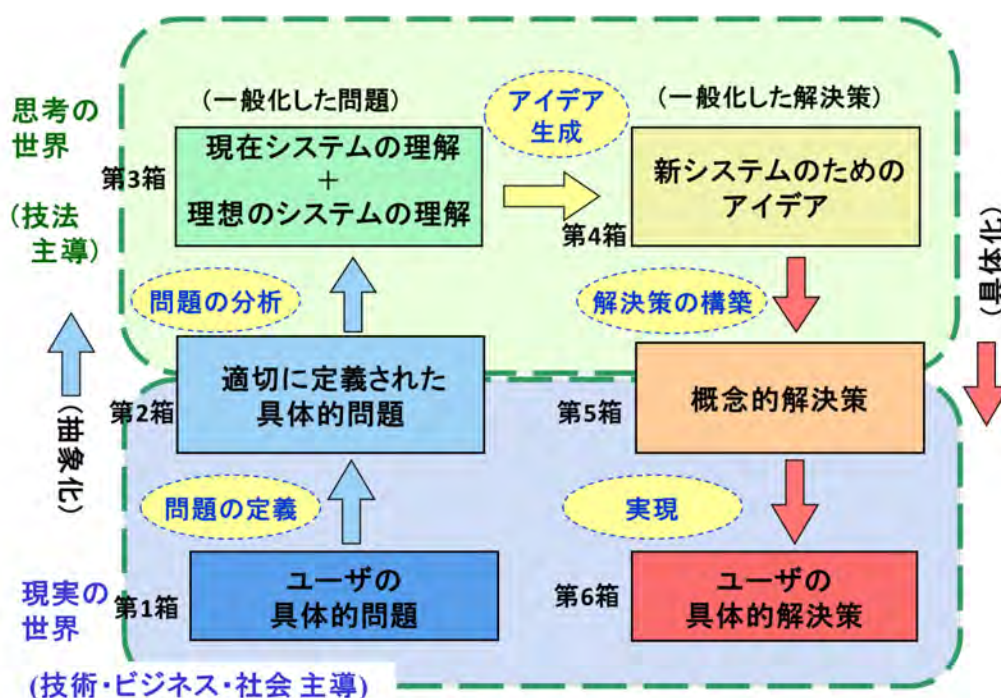


図1. 「6 箱方式」：創造的な問題解決（CrePS）の基本パラダイム

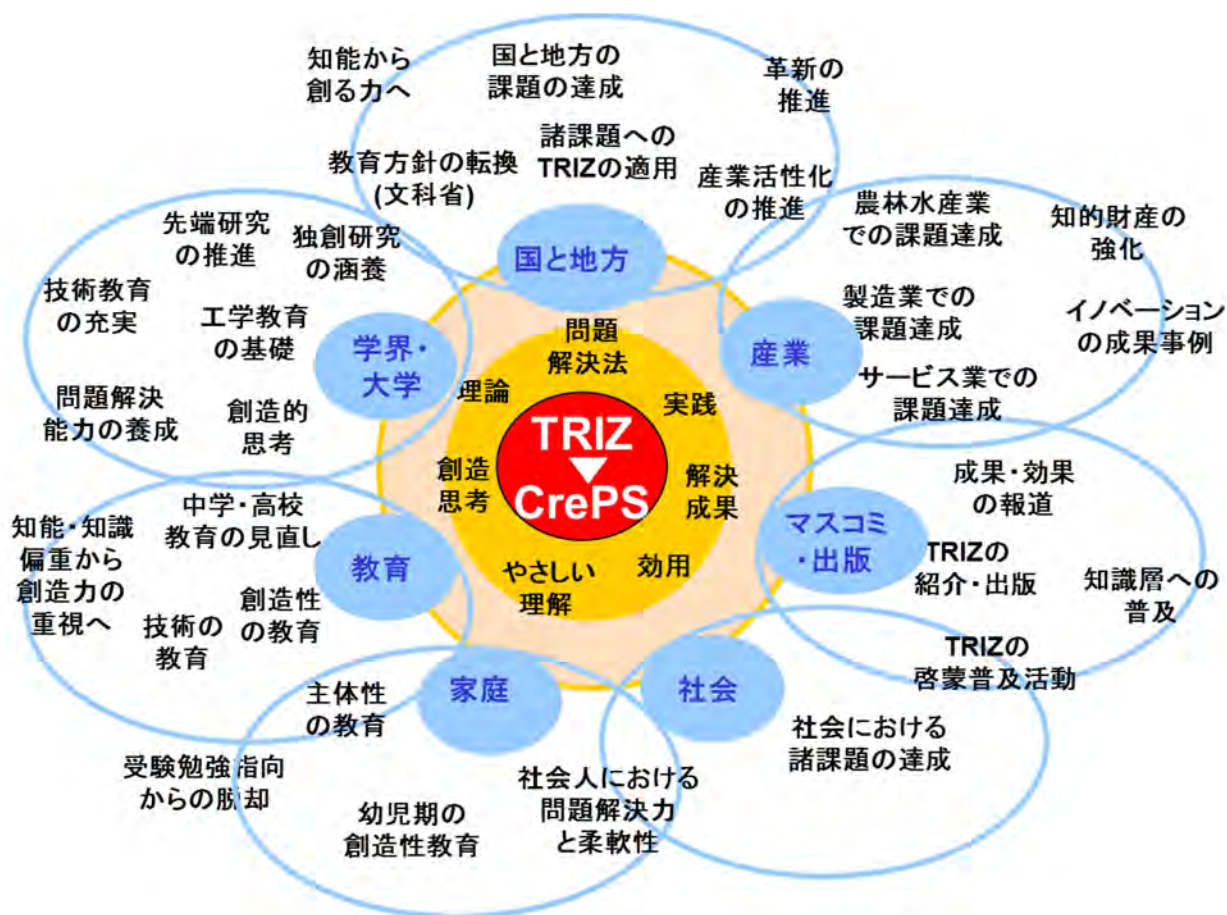


図2. 創造的な問題解決の方法論が目指す適用分野とテーマの例。
当初は中心に TRIZ を置いて考えたが、より一般的な方法論 CrePS に改めた

TRIZ を再考して得られた、
より高いレベルの新しい目標 (2012年 5月、中川 徹)

より高い新しい目標:

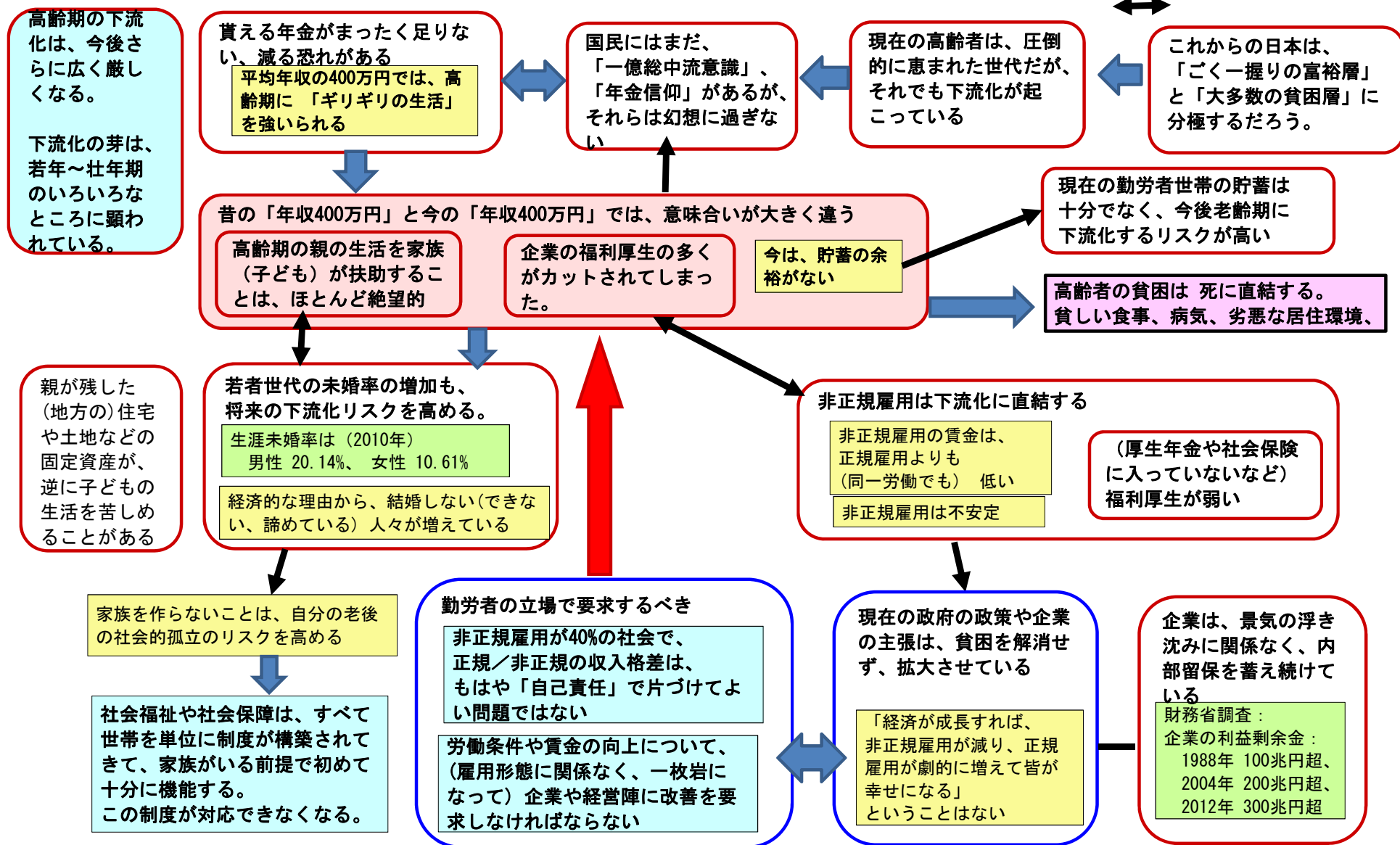
創造的な問題解決と課題達成のための、
一般的な方法論 (略称: CrePS) を確立し、
それを広く普及させて、
国中の (そして世界中の) さまざまな領域での
問題解決と課題達成の仕事に
それを適用する。

この方法論の略称を CrePS (クレプス) と決めた (2013年 4月)

図3. 創造的な問題解決の方法論 (CrePS) の目標

原典：藤田孝典著『下流老人』 「第3章 誰もがなり得る下流老人－「普通」から「下流」への典型パターン」 pp. 75-124

論点の可視化（「札寄せツール」による図示）（中川 徹）（3）誰もがなり得る下流老人（3B）近い未来編

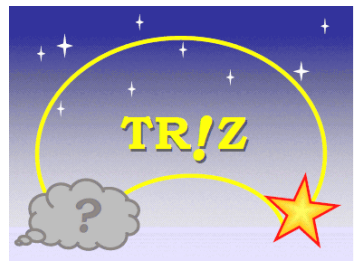


『TRIZホームページ』（編集者：中川 徹） <http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>

資料 [4] 『下流老人』の「見える化」図 誰もがなり得る下流老人（近い未来編）

論考：

「自由」 vs. 「愛」： 人類文化を貫く主要矛盾
— 『下流老人』に対する人々の議論を踏まえ、その根底を考える



中川 徹 (大阪学院大学 名誉教授)

TRIZ ホームページ、論考、2016 年 4 月 22 日 (和文掲載)、(4 月 29 日英文掲載)

<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jpapers/2016Papers/Naka-Liberty-Love-2016/Naka-Liberty-Love-160419.html>

0. はじめに

本稿は、**藤田孝典著『下流老人』(2015)を原典**にして、その論旨を「見える化」しながら考えるという仕事から生まれたものです。直接には、Amazon.co.jp サイトに掲載されている、同書に対するカスタマーレビュー（読者の書評）82 件の議論を考察したことが契機になりました。興味深いことに、多数の読者が星 5 あるいは星 4 の高い評価をしている一方、また多数の読者が星 1 や星 2 という低い評価をしています。

著者【藤田氏】の主張は、「現在高齢者の 20%強（約 6～7 百万人）が生活保護相当の貧困下にあり、将来の日本の貧困はさらに劇的に悪化するだろう。貧困は、個人の努力にも関わらず、社会システムが引き起こしている。憲法で「健康で文化的な最低限度の生活」を保証しているように、下流老人など生活困窮者を生活保護などで保護するべきである」というものです。

これに対する**【読者の一部からの】批判【意見】**は、「身勝手な人生を送って貧困になったような人も、当人の責任でなく、社会のせいになっている。社会保障へのタカリを薦めており、放置すれば国が破たんする。福祉は性善説だけでなく、性悪説も考慮しないと、世間は納得しない。解決策は市場経済と民主主義を否定するもので、非リアルである。」などです。

わたしは、**同書の「見える化」**をし、多数の一般読者の書評を検討してコメントを書きました。その過程で、**議論の根底の深くに**、社会的思想、特に社会倫理に関わる重要な問題があり、それが社会の文化として十分に解明されていず、その結果社会の共通認識が得られていないことに気づきました。それは、**競争社会と助け合いに関わること**、勝ち負けと自己責任の世界における生活保障・福祉の問題です。これを突き詰めると、「自由」と「愛」という、人類文化における二つの重要な標語に到達します。

本稿は、「自由」と「愛」との間の**矛盾が、人類の文化における「主要矛盾」である**ことを述べます。それは実は、「自由」と「自由」の間の矛盾と、「愛」と「愛」との間の矛盾をも含んでいるのです。また、個人のレベルから、グループや組織のレベル、企業や国のレベルへと、社会構造の階層を上がっていくにつれてより大きな困難な問題を含みます。そして、この「自由」と「愛」との矛盾を解決しようとしてきたのが人類の文化であったこと、それがまだ未成熟なのだということを述べます。

***** 以下が本体部分の目次ですが、内容を省略します。

1. 「自由」と「愛」： 両立すべき矛盾
2. 両立のための根底にある概念： 倫理と基本的人権
3. 「人類文化の主要矛盾」とその構造
4. 競争と「勝ち負け」
5. 性善説ベースの解決策と性悪説ベースの解決策

***** 以下に、結論部分を書きます *****

6. むすび

この論考はさらに続くのですが、本稿で述べたことを整理して、一つの区切りにします。

(1) **人類の文化は、「自由」を第一原理とし、その伸長を主要目標とします。**

各人が、自分で判断し、行動し、「生きる」ことです。

「自由」は、(自然的、社会的な)「競争」に「勝つ」ことを目指します。

一人の「自由」と他者の「自由」とは、必然的に衝突します(矛盾します)。

(2) **人類の文化は、「愛」を第二原理とし、その普遍化を主要目標とします。**

各人が、その子を愛し、家族を愛し、隣人を愛して、「助け、守る」ことです。

「愛」は、「自由」を自制して、「自由」同士の衝突を無くすことを目指します。

「愛」は、自分の周りの「身内」を助け・守るために、「外」からの攻撃に対抗する性質があります。

それは、「身内」を一つの社会的主体と考えると、一つ上のレベルでの「自由」と「競争」を出現させます。

(3) 人類の文化は、「自由」と「愛」という、しばしば対立する(矛盾する)二つの原理を、どのように両立させ、使い分けつつ発展させていくかを、問い続けてきました。

「自由」vs.「愛」を、本稿で、「人類文化の主要矛盾」と名付けました。

(4) この「自由」と「愛」との両方を包含して動機づけ、その間の調整を行う指針として

人類文化が獲得してきたのは、「倫理」でしょう。平たく言えば、「人の道」、「良心」です。

「倫理」の根幹部はすでに DNA に埋め込まれていると考えられますが、当たり前すぎて、明示することが難しい面があります。

「基本的人権」の概念は、この「倫理」[の一部]が明確化されたものといえます。

(5) 人類は、その文化の歴史の全体を通して、この「自由」と「愛」という「主要原理」の伸展と、「自由」vs.「愛」という「主要矛盾」の解決に取り組んできたといえます。

その中で、いろいろな**社会システム**が作られ、文化が発展してきました。

ただ、「**主要矛盾の解決**」という問題は**一層複雑化し、困難を生じている面があります。**

(6) **困難の原因の第一は、社会システムが多数で、多層で、大規模で、相互に複雑に絡み合っていて、各社会システムにおける、「自由」「愛」「倫理」のあり方を明確化し、世界的に理解【を共有】することができていないことです。**

原因の第二は、それらのあり方が明確にされ、(社会的な)「倫理」が明確にされても、多くの個人や社会組織が自己の利害(「自由」)を主張して、「倫理」に反する行動をとり、それが社会的「勝者」になることです。

そして、そのような行動や組織が、(小さいものから大きなものまで)世界中の至る所にあり、それらが**歴史的な積み重ね**を持っていることです。

(7) 以上のように、本稿は、**人類の文化の根底にある「主要原理」と「主要矛盾」という概念**を見出し、その骨格を描き出しました。

今後さらに、基本的ないくつかのレベルの社会システムについて、

そこでの「自由」と「愛」と「倫理」の実情と理念を考察していきたいと考えています。

それが、当初から取り上げていた、社会の貧困の問題と、福祉の考え方を明確にし、社会を改革するための指針を明確にすることにつながると考えています。

以上